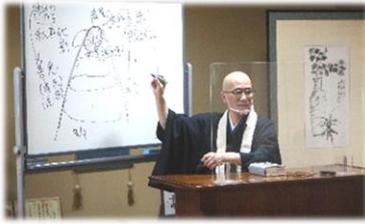




JYOKYOJI.KASHIWAZAKI



↑夏の法話会



報恩講お引き上げ



夏休みお楽しみ会



盆参会



発行日 令和三年八月十三日 第三十七号

浄敬寺だより

じょうきょうじ



【法語】

高原の陸地には、蓮華を生ぜず。
卑湿の淤泥に、いまし蓮華を生ず。

真宗聖典二八八項



【意識・解説】

高原（夏場過ごしやすい避暑地のような場所）には蓮の花は咲きません。ジメジメドロドロとした、一見汚く見える泥の中から、美しい蓮華が咲くのです。

夏、蓮が美しく咲く名所がいくつもあります。県内では七月中旬からお盆にかけて調度見頃でしょうか。美しい花ばかりに目が行きますが、根っこは泥の中、そこから泥に染まらない美しい花を咲かせるのが蓮です。『維摩経』という經典の一説に、凡夫が煩惱の泥の中にありながら、菩薩に導かれて、仏の正しい覚りの華を生ずるということを、蓮が花開くことに喩えて、教えが説かれています。

私たち（凡夫）の実態は、どんなに爽やかに装っていても、ドロドロとした煩惱を抱えています。抱えているといついか手放せそうな気がしますが、そう思うこと自体が既に思い上がりなのかもしれません。妬みや執着だけでなく、善い者でいたい、良く思われたい、それも私たちの煩惱です。そのことに深く悲しみを抱き、念仏申す生活を促してください。それが如来のはたらきであり、煩惱にまみれた私たちが念仏申すということが、蓮華が生じたということです。

いち早く梅雨明けした後、厳しい暑さの毎日です。先日は柏崎市が全国7番目の高温だったようで、遠方の親戚の方から大変でしたねとお見舞いの言葉もいただきました。この猛暑の中でオリンピック・パラリンピックが開催され、日本の選手の活躍が連日ニュースになっていきます。コロナ禍の中での開催に反対する意見も多かったです。心配した通り、開催中もコロナ陽性者が激増しました。オリンピックの盛況と興奮の中でも私たちの危機感も薄れてしまったようです。オリンピックに反対したのにオリンピックを見るのはおかしいとか、理解に苦しむ意見も散見しているようですが、どうもこういう意見を二分する出来事があると、人の考え方も極論に走り勝ちです。平和の祭典と言われるオリンピックが、異常な状況の中で開催されたのはある意味不幸なことでしたが、ここは冷静に、まずは自分が感染予防に努めながら、選手の活躍を祈るしかないようです。

さて、このオリンピックの中で残念な話題がありました。ネット上での選手に対する心無い誹謗中傷です。インターネットという空間の中で、本名を明かさず、好き勝手に選手の悪口を書くなど、ネット

という匿名性を利用して、陰に隠れ自分が傷つくことのない場所から石を投げ、人を傷つけることで快感を得ている人がいるのです。私はここにも現代の新型コロナの影響が暗い影を落としているように思えてなりません。新型コロナで先が見えない不安な状況が背景にあり、いわば心の防衛本能として、自分の不安を和らげるために他者を攻撃して心の安定を図っているということなのでしょう。確かに、コロナ禍が現代社会に閉塞感や不満をもたらしていることは事実です。コロナ対策として、私たちは国に自粛という言葉で行動を規制され、その上に様々な経済活動を制限されて我慢も限界に達している方もおられるようです。それが長期間にわたるとなると、その捌け口をどこに求めるかという問題が生じてきます。そういう意味では、今回のオリンピックで殊更このことが話題に上がることにはそれなりの理由があり、加害と被害の両面に目を向けねばならない根深い問題があるような気がします。

現代に生きる私たちは、疫病という自ら経験したことのない不安な状況の中に身を置いています。それだけに思いもしない人間の闇を垣間見ることもあります。宗祖親鸞聖人が生きられた時代もやはり疫病や飢饉で人間がどん底の中で生きざるを得なかった時代であったと聞いています。御和讃に「煩惱に

まなこさえられて 摂取の光明みざれども 大悲ものうきことなくて つねにわが身をてらすなり」(高僧和讃)とあります。そういう時代であったからこそ、聖人は罪深いわが身を自覚し、そういう自分を見捨てることなく救わんと照らしてくださる弥陀大悲の御恩徳に感謝せずにはおられなかったのだと思います。

「仏の顔は何度でも」あるお寺の掲示板の言葉だそうです。不安の多い現代ですが、何があるうともお念仏の心だけは忘れずにいたいものです。 合掌

(住 職)

☆庫裡便り

浄敬寺の日々の出来事から
坊守の所感をお伝えします。



◎今年の報恩講お引上げ法要の午後、役員・寺族臨席のもと、帰敬式が執り行われました。

おかみそりの後、法名伝達、住職の法話と続き、最後に受式者代表の「誓いの言葉」をいただきました。帰敬式を受け法名をいただくことは、私たちの生き方を問い直し、新たな人生の出発式なのです。機会が有りましたらご案内しますので、皆様も是非お受けください。

3

◎夏のお楽しみ会(子ども会)では、村井さんとご友人による弦楽二重奏のコンサートを開催しました。本堂に響く素敵な音楽に参加者もうっとり。
平成三年、稚児行列参加者の慰労会を兼ねて始めた子ども会も三十回。お父さんになってお子様と参加してくださった方に感激でした。

熱意あるスタッフに支えられて続けてきた子ども会、来年は境内の涼しい風の中で食事ができることを願っています。

◎美味しい桃をいただきました。その時、娘から聞いた桃の切り方の話を紹介しましたところ、上手くいったとの丁寧なメールをいただきました。

私も昨年この方法を知ってから桃を切ることが楽しみになりました。ご存じの方もおられると思いますが、試してみてください。桃缶の桃が出来上がります。准坊守の絵でご説明しますので、ぜひお試しください。

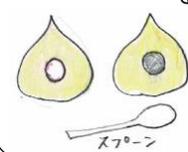
①種まで包丁を入れ
一周回す



②両手で桃を持ち
ひねるように回す



③種をスプーンで取り除き
皮をむいて切る



◎二女千晶は吹き替え・ナレーションの仕事が中心になっていますが、十月二十一日(木)にアルフォーレで上演される『綾子舞物語』の舞台に出演予定です。既に入場券は完売になってしまいました。ご縁のある方はぜひご覧いただけますようお願い致します。

☆二〇二一年前半を振り返って

◎春彼岸（お中日・三月二十日）法話 住職

市内での流行が落ち着いていたこともあり、参詣の皆様のご協力のもと、おときをお持ち帰りにし、お勤めすることができました。昨年の夏に得度した唯信・顕信も秋のお彼岸に続き一緒にお勤めをしました。左記、法話要旨です。

コロナ禍の時代、残念ながら念仏によってウイルスを撃退することはできませんが、念仏は無明の闇を照らす燈火として、私たちに生死を恐れず見つめることのできる正しい眼、勇気を与えてくれるのではないのでしょうか。差別や偏見によって他者を排除していくことは、人間の揺るぎない業であると思います。しかし私たちが大切な誰かを失ったときそう気づけるように、体は遠く離れて会えなくても、心だけは近くにあり続けることが出来るのも、また人間という存在なのだと思います。心までは隔離されてはならないのだと思います。

◎報恩講お引上げ（五月十九日）法話 今泉温資師

宗祖親鸞聖人の御命日のお勤めの報恩講は、真宗寺院にとって最も大切な年中行事です。昨年の報恩講は緊急事態宣言の発令中だったこともあり、十月に延期して厳修いたしました。今年も例年通りの五月十九日にお勤めすることができました。お馴染みの今泉先生の法話に始まり、法中御寺院方にも出仕していただき、お勤めしました。法要後には、昨年に引き続き、浄敬寺総代・佐藤信義さんのお孫さんでピアノ奏者の村井宏明さんから演奏をしていただき、リクエスト曲含み数曲をお聞かせいただいで、楽しいひと時を過ごしました。

午後からは、事前に希望者を募った帰敬式を執り行いました。このような形での帰敬式は初めての機会でしたが、十名の方から受式していただき、住職より法名を授与させていただきました。

◎夏の法話会（六月二十七日）法話 佐野 明弘師

「いのちを生きるということ」

コロナ禍と言われて早一年半。生きること、いのちということ益々分かりにくくなった気のする今日この頃です。身の回りに起こる様々な出来事や境遇において迷ってしまう私たちが、この「いのち」をどういただき、受け止めていけるのか、佐野先生から、じっくりとお話いただきました。左記、法話要旨です。

コロナ禍で沢山の法話会が中止になりました。改めて思わされることですが、法座に座らせていただくということは、分かっても分からなくてもお育ていただくことです。場に座るといっただけで、すでに育ての中にあります。

私たちには、自分が本当に自分であることを受け止めて生きていきたいという根本的な欲求があります。しかし、他の動植物と違い、人間は自我を働かせて自己を確立しようします。しかしその自己は、確かな「私」ではなく、「私と感じているもの」です。いのちが生きていくのに、いつの間にか「私」が生きてしまった人間は、自分でハンドルを握り、そのハンドルを自分で切れる状態にありながら、不安・孤独・虚しさが消えません。それは本当の智慧がないからであり、本当の拠り処を持ってないのが「私」の正体です。

真宗は出遇いの教えで、親鸞聖人は仏様の眼を通して自分を見られた方です。仏様がいのち懸けで受け止めてくださっているのが私の人生です。例えば、花を見てきれいだと感じること、人間の根底にある辛さや悲しみを感ずることは、いのちの何かに触れているからであり、その感覚は深く厳粛なものです。自分で選んできたと思つていくことも全て業縁の中で起こっています。一刻一刻が出遇いの時です。如来は、自らの力で成就できない人間に、我が名・念仏を称えてくれと願われています。成就のない身であるからこそ、念仏申す身をいただける。お念仏することで、日常の中で人間とていのちを生きる自分をいただくのです。

*録音しております。法話データご希望の方はお知らせください。

◎盆参会（七月十四・十五日）法話 住職・当院

十四日は住職から、十五日は当院から法話の後、勤行。おときは現在の状況を鑑み、精進寿司折詰のお持ち帰りとさせていただきます。



盆参会（盆内）は新潟県中越地方独特の行事で、直接のご先祖と関係の深いお寺の御本尊にお参りするのが習わしですが、近年浄敬寺では新盆法要を兼ねてお勤めしています。大切なご親族とお別れを経験され、はじめて盆内に参詣してくださる機会も多い法要ですので、勤行次第やお焼香の作法等をご説明するようにしておりますが、ご不明な点がありましたら、お気軽にお尋ねください。

◎夏のおたのしみ会（八月一日）

昨年に引き続き、二時間程度の時間短縮版のお楽しみ会を企画致しました。ご参加の皆様、ありがとうございました。

本堂にて勤行、住職からの法話、絵本の読み語りに引き続き、境内で遊びました。後半は今年が目玉のコンサート。例年、音楽に親しむミニコンサートの時間を作っていますが、今年はスペシヤルコンサートと題してボリュームアップした演奏会をお願いしました。村井さんと野辺さんのお二方でのバイオリン・ピアノの二重奏で、私たちにとって身近で親しみのある名曲の数々を演奏していただき、楽しい時間を過ごしました。通常、バイオリンとピアノが二重奏で演奏する機会はない…とのことで、楽譜はこの日の為にバイオリン奏者の野辺さんが書いてくださったとのこと。まさにスペシャルな一日限りのコンサートでした。

例年のことながら、知っている曲が流れ出すと、口ずさんだり小さく踊ったりする子ども達。二年振りに素晴らしい音楽に触れる機会をもてたことを嬉しく思いました。

☆書籍紹介コーナー☆

ちょっぴらおススメ



『海の見える台所』
福丸やすこ作

本堂と庫裡をつなぐ廊下に本棚がありますが、書庫整理をしようという計画を練っています。超有名な先生方の仏教書も並べていますが、根底に真宗の教えがある、または読んでいて仏教の世界観としか思えない絵本や漫画も沢山あります。親子で楽しめそうな書籍を紹介します。ぜひお手に取ってご覧ください。貸出も可能です。

大手通販サイト・ア○ソンの辛口な口コミでも大変高評価な書籍です。美味しそうに料理の数々と共に、人と人との心の触れ合いが、やさしく丁寧に描かれています。しかも、作者の福丸やすこさんは、当院の専修学院時代の同期生。つまり僧侶で、お父様は真宗本廟内・同朋会館で法話をされる教導さんで、晴香もかつてお世話になった先生でもあります。仏教・真宗という言葉は出てこないものの、作者の根底にお念仏があることを想像させられるマンガです。

長男・唯信も大好きな漫画家さんです。

お楽しみ会スナップ



来年も待ってるよ!



☆二〇二二年後半の行事予定

八月十三日～十六日 孟蘭盆会（お盆）

* 十三日・・ 午前六時より 本堂にて勤行

九月十一日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

九月二十～二十六日 秋彼岸

* お中日 二十三日（秋分の日）

午前十時半～法話勤行後おとき

十月九日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十一月五～八日 三条別院報恩講

* 参拝のご案内については、別途お知らせします

十一月十三日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十一月二十一日（日） しまい講

* 午前十時半～ 法話・勤行・おとき（未定）

十二月十二日（日） 物故者追弔法会 兼 年末法話会

* 午後一時半～四時 講師 未定

二〇二二年一月一日 修正会勤行 朝六時より

一月一～二日 年始参

* 真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう

定例法話会『歎異抄をよむ会』のご案内

・ 基本的に第二土曜日午前九時より

・ 内容 『歎異抄』の解説、正信偈のお勤め

（終了後、ささやかな茶話会あり）

・ 持ち物 赤本・念珠・『歎異抄』の冊子



* 行事にご参加の際は

浄敬寺で開催の行事においては、申し込みは不要です。

当日の開始時間を目指してお越しください。

* 感染症対策のお願い

マスク着用と手指の消毒をお願いいたします。

感染症の流行状況によっては、直前の変更を余儀なくされる場合があるかもしれませんが、ご承知おきください。

速報はホームページに掲載いたします。

☆浄敬寺本堂での「帰敬式」

ちよっころ
ご報告

今年の報恩講は、おとき弁当をお持ち帰りいただき半日開催でしたが、同日の午後から浄敬寺本堂での帰敬式を企画しましたところ、十名の方から受式していただきました。ご報告いたします。



☆帰敬式を「ご希望の方は…」

南無阿弥陀仏の教えに導かれて、この人生を生ききる名のりが法名です。浄敬寺では少人数・お一人からでも開催できます。また本山や別院で受式することもできますので、ご希望の方はお知らせください。

おめでとうございます



☆真宗門徒の豆知識

通夜・葬儀後の中陰と、その後の月忌参りについて、簡単に解説させていただきます。

ちよっころ
解説



① 中陰の七日参り

お浄土に還られた日を一日目と数えて、四十九日目までを『中陰（ちゅういん）』と言います。何があってもなくても、毎朝の勤行を行うことは真宗門徒の宗風ではありますが、中陰期間は七日毎にお骨参りに伺い、七日の節目に重きを置いてお勤めをします。

② 満中陰法要とその後

四十九日を迎えると、満中陰法要を行い、お墓に納骨を行います。四十九日目前後の有縁の方々が都合の付けやすい日を選びましょう。真宗門徒は位牌を用いませので白木の位牌に書かれた法名は、法名軸や過去帳に書き換えます。



上：過去帳と台
右下：法名軸 お内仏の右側面に掛けます
左下：総法名軸 お内仏左側面に掛けます

③ 月忌参り

満中陰後は毎月の命日にお参りに伺います。ご法事の相談、お内仏を新たに入れられる方やお墓を建立される方は、月参りの折にご相談いただくことが多いです。葬儀を執り行い満中陰を迎えるまでは、喪主となる方にとって、様々な手続きや段取りを行い、慌ただしい期間となってしまうのが現状です。月命日のお参りが悲しみや思い出にゆっくり向き合う時間となるよう願っています。

オリンピックが始まって間もない頃、小学二年生の三男が怒っていました。訳を聞くと、オリンピックのせいでいつも見ているアニメが休止になったそうです。怒りを鎮めるため、何かビデオをレンタルしてあげるとリクエストを聞いたところ、漫画家荒木飛呂彦作『岸辺露伴は動かない』（*ジャンプコミックス『ジョジョの奇妙な冒険』のスピノフ作品）と答えました。なかなか渋い趣味です。

レンタルして一緒に見ていると、三男から「岸辺露伴は動いているのに、何で“動かない”というタイトルなの？」と質問がありました。岸辺露伴は物語中、全く心がブレないキャラクターです。おそらく「動かない」というのは岸辺露伴の心の事だろう、と説明しましたが、今一要領を得てないようなので、お釈迦様の「アングリマラーの物語」を少し話しました。

アングリマラーとは、先生に騙されて「人の指を百本集めれば悟りを開ける」と教えられ、人を殺して指を集めた人です。そして、あと一人で百本目という時に出遇ったのがお釈迦様でした。アングリマラーはお釈迦様に「動くな」と言いますが、お釈迦様は歩みを止めません。お釈迦様はアングリマラーに「私の心は動いていない。動いているのはお前の方ではないか？」と告げます。その言葉に諭され、アングリマラーはお釈迦様の弟子になったというお話です。岸辺露伴も同じように「自分らしい生き方」をしているということだろう、と考えを伝えました。

人間には根源的に「自分らしく生きたい」という願いと行動があります。これを「流行（るぎょう）」と言います。いのちの根本から流れる願いと行動のことです。現代の最先端のスタイルを心がけることを流行（りゅうこう）と言いますが、その語源でもあります。ご存じの通り、現代の流行は常に変化します。それは人間が本当に自分らしく生きるということが分からないからであ

ります。

親鸞聖人は、人間が本当に自分らしく生きることが分からないこそ、如来の名、お念仏申さねばならない存在であると説かれたのでした。お念仏だけが、ブレることなく、現代の私たちに伝わっているという事実があるのです。

話を聞いた三男は「そうか」と言いましたが：どうでしょうか。

（当院）

☆編集を終えて：

最近、子育て仲間から仏事について尋ねられる機会があります。長男と共に幼稚園デビューしてから早十年。子育てのお仲間は、育児から介護へと生活の比重が変わり、そして少し早い方は親を送る年頃となっているようです。

十年来のママ友いわく、いざという時になると仏事は分からないことだらけ。仏教用語は一般用語と読み仮名が異なっていて読めず、意味も難解とのことでしたが、分かったふりをせず、「これは何て読むの？」「こんな時どうしたらいいの？」と、気軽に尋ねてくれる友人の言葉から、私もまた新たに気付かされることがあり、とても新鮮です。

「仏法の事はいそげ、いそげ。（蓮如上人）」：どうぞお気軽にお尋ね・お声掛けください。

（晴香）

☆連絡先

浄敬寺 TEL:0257-22-2481

Fax:0257-222140

住職 tom814@kismet.or.jp

当院 minipapa@kismet.or.jp

晴香 haru310@kismet.or.jp

